

2022.12.15. 人々のために心を痛める

エレミヤ書 45～47 章

JD ファラグ牧師

こんばんは、ようこそ。どうぞお座りください。今夜来て下さり嬉しいです。オンラインで参加されている方々を歓迎します。とても嬉しいです。始める前に、いくつかお知らせしたいと思います。土曜日の夜のクリスマス礼拝からです。午後5時から開始です。メモしておくとも良いかもしれませんが、また、日曜日の朝、クリスマスの朝の礼拝はありません。ニューヨーク...、ニューイヤー/元旦の日曜日の朝の礼拝を行います。ー(笑)ー 今週も大変なんです。スタートは良くなかったですね。言うのは簡単ですよ？ここからが本題です。今週の日曜日が1月8日までの最後の預言アップデートとなります。繰り返しますが、25日クリスマスの朝の礼拝はお休みだからです。元旦の日曜日の朝の礼拝は、マック牧師が教えます。マック牧師とレイトゥ牧師が、来週の木曜日から私の代わりにしてくれることになりました。今夜、主の御心なら、主の御心なら”と強調しますが、今回も3章分です。2つの章は非常に短いです。主よ、感謝します。今回も3章分です。2つの章は非常に短いです。主よ、感謝します。ですから、エレミヤの学びを再開するのは、私の日付が正しければ1月12日(木)です。ですから、エレミヤの学びを再開するのは、私の日付が正しければ1月12日(木)です。今度の木曜日、つまり今日から1週間後は...やりすぎですか？書いておくべきでしたね。皆さん、完全に混乱してますよね？分かりました、賜物なんです。次の木曜日、妹がカリフォルニアからやって来ます。これまであまり一緒に過ごしていませんので、今年はとても大切な時間です。ということで、来週の木曜日はマック牧師に教えてもらいます。そして、次の2週の木曜日はレイトゥ牧師です。私が戻って来て、エレミヤ書学びを再開するのは12日になります。そして、この日曜日以降、1月8日(日)に預言アップデートと第二ペテロの学びを再開する予定です。分かりましたか？そう願います。良かったです、ええ、ありがとうございます。皆さんは本当に優しいです。そうしないといけませんよね。では祈りましょう。

お父さま、本当にありがとうございます。ああ、主よ、これは私たちの時間です。私たちは毎週、ここにきて礼拝し、交わり、そして御言葉に触れることができるのをとても楽しみにしています。私たちはエレミヤによって本当に祝福されています。エレミヤを、エレミヤ書をあなたに感謝します。主よ、今夜も例外ではありません。ここには、私たちが楽しみにしていることが沢山あります。このあなたの御言葉の中で、あなたが私たちに、適切なものを用意されていることを知っています。しかし、私たちはただ聖霊が私たちに落ち着かせ、静まらせてくださるよう切に願います。そうすれば、あなただけお出来になるように、いつもそうして下さるように、あなたが静かな小さな声で語られるのを聞くことができます。主よ、私たちは飢え、渇き、切望しています。今夜、それを満たしてください。主よ、このことをあなたに求めます。イエスの御名によって、アーメン。さて、今夜の章は、人々に襲いかかる神の裁きを知ることで、人々のために心を痛めることに関する非常に重要な問題を語っています。さて、今夜の章は、人々に襲いかかる神の裁きを知ることで、人々のために心を痛めることに関する非常に重要な問題を語っています。さて、今夜の章は、人々に襲いかかる神の裁きを知ることで、人々のために心を痛めることに関する非常に重要な問題を語っています。45章以降、この書の残りの部分で、実際には51章までです。ところで、この書も残すところあと7章となりました。信じられますか？今夜の後、残り4章となります。しかし、45章からこの書の残りの部分を通して、私たちはある種の角を曲がっています。エレミヤの書記から始まります。以前に紹介しました。その書記の名前は、バルクです。45章は非常に短い章ですが、し

かし、この章はバルクが非常に落ち込み、絶望し、落胆し、傷ついていたときに、神がどのように彼を引き上げてくださったかについて、ぎっしりと詰まっている章です。そして、周囲の人々への裁きについて書かれています。これは現代の私たちの人に対する見方にも当てはまります。導入として、このことに触れ、共有したのは、今夜、私たちの前にある箇所を理解するために、重要なことでしょう。数年前、神は私の人生の中で、人々に対する見方について、個人的に、力強く深い働きをされ始めました。神がそうなさる方法は、非常に優しく、そうなさる時、辛抱強く、忍耐深くあらわれます。その方法は、うまく言えませんが、神が人を見るように、私も人を見ることができるようになり始めたのです。それがすべてを変えました。人々に腹を立てるのではなく、気の毒に思うようになりました。そして、気の毒に思うことが、彼らのために祈ることにまで発展していきました。それが私を変えました。なぜなら、今、私は人々を、永遠というレンズを通して見ているからです。私は、彼らに襲いかかるもののレンズを通して、彼らを見ます。彼らが知ってさえいれればと思います。彼らは何が起こるかかわかっていません。裁きが彼らの上に来ようとしています。あなたは彼らに心を寄せ始めます。彼らのために心を痛め始めます。それが神の御心だと思えます。神は、私たちが人々をそのように見ることを望んでおられます。45章では、このことをバルクの個人的な側面から見ていきます。そして、この角を曲がって、神が裁かれる国々を国レベルで見えていきます。今夜はエジプトから始めます。そしてまた、主の御心なら、今夜ペリシテ人も見えていきます。では、45章1節に入りましょう。

—エレミヤ 45:1—

ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年に、ネリヤの子バルクが、エレミヤの口述によってこれらのことばを書物に書いた時、預言者エレミヤが彼に語ったことばは、こうである。

—エレミヤ 45:2—

「バルクよ、イスラエルの神、主は、あなたについてこう言われる。

—エレミヤ 45:3—

『あなたは言った。ああ、私はわざわざいだ。主は私の痛みに悲しみを加えられた。私は嘆きで疲れ果て、憩いを見出せない、と。』

興味深い詳細です。時系列が示されています。これは、すぐに生きてきますが、しかし、この章は深く傷ついたバルクの姿から始まります。これは36章での出来事に続くものです。36章で何が起きたか覚えていませんか？ エレミヤがバルクに、すべての預言を書き、書記として巻物に記録するように言ったのを覚えていませんか。そして、バルクはそうします。巻物がエホヤキムの前に出されると、エホヤキムはどうしますか？ 書記が持っていたナイフで、巻物の一部を切り取り始めます。これは神の御言葉です。さらに悪いことに、彼は神の御言葉である巻物を手に取り、火の中に投げ込んで燃やしたのです。それが36章でした。ここで45章に早送りします。36章には書かれていませんでした。しかし、今、あのバルクが深く嘆いていたと書かれています。"バルクがこう言っているのに注目下さい。「主は私の痛みに悲しみを加えられた。」こう考えないでください。間もなくお話ししますが、彼が神を非難しているとは少しも考えないでください。彼は、すでに持っていた痛みに加え、悲しみを主が許されたことを認めているのです。詩篇のダビデを彷彿とさせるほど、ひどいものでした。神の御心に適う心を持ったこの人、イスラエルの甘美な詩篇の作者の心を垣間見ることができます。それほど絶望の淵に立たされることとなります。バルクは「おお、主よ…！」と嘆き、呻きます。それがバルクの状況でした。あまりのひどさに、疲れ果てます。ダビデは詩編6編でこのように語っています。涙でベッドを濡らしてしまうと。涙が止ま

りませんでした。ここでバルクは、ため息をつくの止められず、あまりのため息の多さに疲れ果て、心が休まる間もないと。ダビデは眠れませんでした。それほどに、深い悲しみと痛みと傷でした。4節。この時、神がエレミヤをバルクのもとへ行かせられます。

—エレミヤ 45:4—

「エレミヤよ。あなたは彼にこう言え。『主はこう言われる。見よ。わたしは自分が建てたものを自分で壊し、わたしが植えたものを自分で引き抜く。この全土をそうする。』

そして5節。

この節をごちゃごちゃにしないでください。"

—エレミヤ 45:5—

あなたは、自分のために大きなことを求めるのか。求めるな。見よ。わたしがすべての肉なる者に、わざわいを下そうとしているからだ—主のことば—。しかしわたしは、あなたが行くどこでも、あなたのいのちを戦勝品としてあなたに与える。

実は、今夜の教えは、この5節だけを取り上げようと考えていました。私には出来ます。その理由は、そこに宝石があり、そこから掘り出される富があるからです。ここでもう一つ告白したいことがあります。私は、バルクを厳しく批判する解説者たちに賛同しかねました。これには次の5つの理由があります。1つ目：神は倒れた人を決して蹴ったりなさいません。こう言われるのを聞いたことがあります。一番良い言い方だと思います。「神は絶望した人を決して責められない。」そのことを聖書を通して見ることができます。旧約聖書の中に見られます。神に力強く使われている男性や女性が、絶望し、深く深く傷つき、痛む瞬間がたくさんありました。使徒パウロでさえ、人生に絶望しました。その意味が分かりますね？つまり、パウロはもうこれ以上生きたくなかったということです。私たちが話しているのは、使徒パウロのことですよ。

「おい、頼むよ。パウロ、信仰はどこに？」神は決して倒れた人を蹴られることはありません。神は決して絶望を理由に人を責めることはされません。神はどうなさるのか？ここで神はバルクのために、エレミヤを遣わされます。深く傷つき、絶望に打ちひしがれている彼を元気づけ、励ますために。特に、神が預言者エレミヤを通してバルクに言われたこと、つまり修辭的な問いかけをされたことは、公平を期して、解説者がバルクを厳しく非難するのも理解できます。「あなたは、自分のために大きなことを求めるのか。自分のために大きなことを求めるな。」それは、残念ながら、悲しいことに、悔しいことに、誤解されていると思います。それを2つ目の理由で説明します。バルクも、51章59節にあるように、ゼデキヤ王の侍従長であった兄を持ち、王室との繋がりがありました。しかし、偉大さを捨て、エレミヤと共に孤独を選びました。それは、実は3つ目の理由にもつながっています。それは代償を数え、いわば十字架を負ったバルクは、その生涯で大きな苦しみを受けたからこそ、神は彼の残りの生涯の面倒を見るという偉大さを保証しておられることです。このように見ると、しっくりきます。それがぴったりであり、それ以外の理解や解釈は、愛と慈悲にあふれた神のご性格やご性質と相容れないものです。もう一度言います。倒れている人を決して蹴られることはなさらないお方です。私はこんな感じだと思います。

「バルク、あなたは偉大な王族の可能性を持っていました。しかし、あなたは代わりに孤独を選びました。あなたがエレミヤと関わることを決断したとき、その意味を理解していました名声や偉大さへの望みを捨て去ることだと。そのゆえに、わたしはあなたを偉大にします。」なぜなら、神は決してどんな人にも負い目を与えられないからです。それはマタイの福音書19章だと思います。19章で合っているこ

とを願いますが、節は分かりませんが、イエスが基本的にこう言うおられる箇所です。

「もし、だれかが、わたしの名、わたしのために、家、土地、夫、妻、子、父、母、息子、娘などをすべて捨てるなら、ああ、心配しないでください。その埋め合わせは十分にしますから。」それが、神がバルクに言うおられることです。「あなたは、偉大なことを望んでいたのに、その代わりにこの道を選びました。わたしがその埋め合わせをします。」

私たちが代償を数え、十字架を負うとき、これから見るように、神が気づかれないとは一瞬たりとも思わないでください。神はこう言われます。

「よし、これで分かりました。あなたがしたことは知っています。あなたが何を犠牲にしたかは知っています。あなたが自ら失うものを知っています。しかし失ったからこそ、救われ、見返りを得ることになります。」これが4つ目です。これは私にとって非常に興味深いです。さて、バルクはエレミヤの書記です。言い換えると、バルクがことばを書き記し、巻物に書く人です。彼はただ文字を書いただけでなく、聖霊によってこの記録をまとめ、保管しました。その靈感を受けて、この45章に、自分の生涯の最後に神の忠実さを証するものとして、この記述を置きました。つまり、できるのにしなかったのは、このためでした。45章を37章にすることもできたはずですが。皆さん、分かりますと良いのですが。というのも、時系列的にはそこが順当だったからです。ついて来て下さいね。エレミヤが神からバルクのもとに遣わされ、バルクを励まし、こう言った時の記述です。

「兄弟よ、神があなたを掴んでおられます。あなたは私にずっと忠実で、私のゆえに大変苦しみました。神があなたの面倒を見られます。」36章で起こったことのゆえに。だから、これは37章であるべきでした。ただ時系列に沿うのは当然でしょう。ですから、疑問は、なぜこれが、36章の後ではなく、45章にあるのか？ なぜなら、これは聖霊に促されたバルクが記録し、配置したものだからです。証しとして最後にこの記述を。未来形ではありません。いや、これは神がなさったことです。神がそうされました。

「私は大丈夫です。大丈夫です。私は正しい選択をしました。」これが5つ目の最後の理由です。バルクは、最後に神が自分の命を救ってくださることを知っていました。考えてみてください。神はバルクを来るべき破壊、摘発、自分の命を守ろうとするすべての者の逆境から救われました。バルクは自分の命を失い、それを救いました。彼らは自分の命を救おうとして、命を失いました。あくまで議論のための仮定の話ですが、公平に見て、バルクが自分に与えられている、目の前の偉大なことを選択したとしたら、45章は全くないでしょう。もしくは、もしそうだったとしたら、非常に違う内容になるでしょう。1節だけでもありません。「バルクは死んだ。」38章、46章でも何章でも良いのですが。しかし、それは私たちが読んでいるものではありません。

最後に一つ。神は私たちを自分自身から守るために、とても忠実であられます。神は初めから終わりを知っておられます。「ああ、バルク、あなたの痛みが分かります。わたしはあなたの痛みを知っています。あなたを励ましたいのです。あなたを励ましたい。今は何もかもが殺伐としていて、暗く、陰しく、悪く見えるのは分かっています。しかし、神は。あなたはまだ最終章を読んでいないのですね。もし、神が何をされるのかを知っていれば、そんなに落ち込むことはないでしょう。もしあなたが、この終わりを知っていさえすれば、『ああ、主は私の痛みを悲しみを加えられた。私は疲れ果てている。』と言う代わりに、こう言うでしょう。『神が何をなさるのか分かりませんが、何をなさるのか待ち遠しいです。これは非常にひどいことなので、神はこの中におられるはずですが。私は忠実に、神の御言葉を記録しました。なんとという特権、深い特権でしょうか。』」

聖書の学びの時間すべてを 45 章だけで出来ると言いましたよ。まだそこまでたどり着いていませんが、ご心配なく。忍耐してください。「なんと深い特権でしょうか、バルクよ。」「ええ。」しかし、なぜ神はエホヤキムがそれを燃やすことを許されたのか？ 36 章で何が起きたかご存じですね？ エレミヤは主から、「もう一度書き直しなさい」と御言葉を受け取ります。「何?! どれだけ時間がかかったか知っていますか？ それを彼は焼いてしまった!」それはこんな感じです。皆さんにもこんなことがあったでしょう。手は挙げなくて良いですよ。パソコンで何かやっていると、一（笑）一ほら、まだ言い終わってないのに。分かりますよね？ そして、何かがかかります。そんな時、まあ、コンピュータを燃やしたくなるわけです。一（笑）一 全部消えてしまって、一からやり直さなければならないからです。何時間もかかったのに！ 保存したのに、どうやらファイルが破損してしまいましたようです。バックアップしていません。私は学習しました、学習したと思いたいですが…私がバックアップのバックアップのバックアップを取っているのをご存じですね？ 誇張しているわけではありません。全て 3 つのバックアップがあります。それくらい、あの時の傷は大きいです。とにかく、私がここで言いたいことが分かりますね？ バルクは…、ダジャレをお許しください。バルクは燃え尽きました。すべての労が。神はこう言われます。

「大丈夫です、バルク。わたしがすることを、あなたが知ってさえいれば。わたしはまだ最終章を書いていません。最後のことはまだです。最終決定は、常にわたしがします。」46 章 1 節です。

シートベルトの準備はできていますか？ 戦場に入りますよ。本当に行きます、いいですか？

一エレミヤ 46:1一

諸国の民について、預言者エレミヤにあった主のことば。

一エレミヤ 46:2一

エジプトについて、すなわちユーフラテス河畔のカルケミシュにいたエジプトの王ファラオ・ネコの軍勢について。ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年に、バビロンの王ネブカドネツアルがこれを打ち破った。

さて、ヨシヤは、「主の御目に適うことを行った」と言われる 9 人の良い王のうちの一人であることを覚えておられるでしょうか。他のすべての王は…北イスラエル部族には、一人も良い王はいませんでした。良い王の 9 人すべては、ユダでした。ヨシヤはその内の一人です。他のすべての王たちは、主の御目に悪とされることを行ったとあります。ですから、このヨシヤは良い王でした。この章では、これから、紀元前 605 年の歴史的なカルケミシュの戦いで成就する預言について、重要な情報を詳しく説明します。ヨシヤが殺された 4 年後、紀元前 609 年です。その時の出来事です。このことについて、実際に学びました。それは辛く、痛々しいものでした。ヨシヤはあの戦いで、あんな死に方をする必要はなかったのに。自ら傷つくところまで手を出して、自ら招いたのです。（II 歴代誌 35:21-25）

悲劇的な最期。良い王でしたが、悲劇的な最期でした。3 節。さあいきますよ。準備はいいですか？

一エレミヤ 46:3一

「盾と大盾を整えて、戦いに向かえ。

一エレミヤ 46:4一

騎兵たちよ、馬に鞍をつけて乗れ。かぶとを着けて配置につけ。槍を磨き、よろいをまとえ。

これはエジプトの軍隊です。

一エレミヤ 46:5一

何ということか、この有様は。彼らはおじ惑い、うしろに退く。勇士たちは打たれ、うしろも振り向かず

に逃げ去る。恐怖が取り囲んでいる。一主のことば一

これはバビロン人のことです。

一エレミヤ 46:6一

足の速い者も逃げられない。勇士たちも逃れられない。北の方、ユーフラテス川のほとりで、彼らはつまずき倒れる。

さて、エレミヤがこの預言を記録したとき、まだこのことは起こっていません。私たちがここで読んでいるのは、この戦いに関するすべての詳細であり、ところで、この戦いは非常に良く知られています。当時の彼らにとっては預言でしたが、今の私たちにとっては歴史です。エレミヤが告げたとおりのことがまさに起こりました。

一エレミヤ 46:7一

ナイル川のように湧き上がり、奔流のように逆巻くこの者はだれか。

一エレミヤ 46:8一

エジプトは、ナイル川のように湧き上がり、奔流のように逆巻く。彼は言う。『湧き上がって地をおおい、町も住民も滅ぼそう。』

一エレミヤ 46:9一

馬よ、進め。戦車よ、走れ。勇士たちは出陣せよ。盾を取るクシュ人、プテ人、弓を引くルデ人よ。

この傭兵たちは、バビロンがエジプトに攻め入り、エジプトを打ち負かしたこの戦い、非常に有名な戦いに参加するために来ました。10節。これに注目してください。

一エレミヤ 46:10一

その日は、万軍の神、主の日、…「主の日」これは主の日です。ある日ではありません。これは主の時です。

その日が来ました。その日が来たということです。

…敵に復讐する復讐の日。剣は食らって満ち足り、彼らの血に酔う。…

ちょっと中断させてください。すみません。脱線や混乱にならないことを願いますが、これについて、ある解説者の見識に大変興味を持ちました。この戦いは、聖書の中でも類を見ないほど生々しく描写されていると言われています。この章では、このまだ未来の戦いについて、最も具体的な描写がなされています。つまり、これから武器、剣が擬人化される場面を見ることになります。神は、読者である私たち世代がその戦場に身を置くために、これだけ細かく規則を記録しておられるようです。私はすでにこの場面にあります。皆さんは？ あまり長い時間そこにいたくありません。きれいではないので。これは非常に生々しいです。非常に説明的で、想像できます。

一エレミヤ 46:10一

剣は食らって満ち足り、彼らの血に酔う。北の地、ユーフラテス川のほとりでは、万軍の神、主に、いけにえが献げられる。

一エレミヤ 46:11一

おとめである娘エジプトよ、ギルアデに上って乳香を取れ。多くの薬を用いても無駄だ。おまえには癒しが無い。

これは…わお…言い換えると、「やりたいことは何でもやってみればいい。うまくいくわけがない。何もあなたを治すことはできず、何もあなたを癒すことはできない。」これが良く知られているギルアデバー

ムです。ギルアデを經由して輸出します。癒し効果があることでも知られていました。神がここで言うておられるのは、「そういうものに頼ることはできるが、あなたを癒すことはできない。それらはあなたを治さない。それらはあなたを救えない。」これだけお伝えして、先に進みます。

これを聞いてください。これは現代にも言えることです。軽々しく、科学を信用しています。科学の神ではなく、科学を神として信頼しています。科学の神を差し置いて、科学を神にしてしまいました。これが神が言うておられることです。

「薬の神々に頼るのですか？ それらは何もしてくれません。」

—エレミヤ 46:12—

国々は、おまえの恥辱のことを聞く。おまえの哀れな叫び声は地に満ちる。勇士が勇士につまずき、ともに倒れるからだ。」

—エレミヤ 46:13—

バビロンの王ネブカドネツアルが来て、エジプトの地を討つことについて、主が預言者エレミヤに語られたことば。

—エレミヤ 46:14—

エジプトで告げ、「ミクドル」で聞かせ、(覚えておいてください)「メンフィス」と「タフパンヘス」で聞かせて言え。(3つ覚えておいてください)「配置について、備えをせよ。剣がおまえの周りを食い尽くすからだ。」

なぜ、その3つの都市なのでしょう？ なぜ、そのような名前がついているのでしょうか。さて、巻き戻しましょう。覚えていますか、神が...これは先週の話です。戻り過ぎましたね。民はユダにいるよりエジプトに行った方が安全だと考え、神がエジプト行きを止めようとされたのを覚えていますか？ ネブカドネツアルによってユダの総督に任命されたゲダルヤが殺害された後のことです。このイシュマエルは、ゲダルヤの家で、彼の食卓で、彼と一緒にパンを食べながら、彼を殺しました。考えられないことです。ユダヤ人たちは、ネブカドネツアルが報復してくると思い、恐怖を感じています。なぜなら、彼らがネブカドネツアルに任命された総督を殺したからです。それで彼らはエレミヤのところに行き、エレミヤに懇願しました。彼らはエレミヤに、エジプトに行くべきかどうか、自分たちに代わって主に尋ねてくれるよう頼みます。しかし、何が不誠実かという、彼らはすでにエジプトへ向かっていたのです。彼らは、すでに決心していました。そこで、エレミヤは主に求め、10日後に答えを受け取ります。答えは、「ダメ」「止まりなさい」「エジプトに行つてはならない。」とにかく、民は行ってしまいました。彼らがエジプトのどこに行ったか知っていますか？ エジプトの、ミクドル、メンフィス、タフパンヘスです。ああ、今分かりました。私はあまり賢い人ではありませんが、これは分かりました。なるほど。だから、神はあなたに行つてほしくなかったのです。なぜなら、繰り返しますが、神は初めから終わりをご存じだからです。神は何が起こるのか知っておられました。

ちなみに...先週の聖書の学びを教え直そうとしているわけではないのですが、これは、今夜、私たちが目の前にしていることに関して、適切だと思います。神はこう言われます。「わたしの記憶違いでなければ、ここユダに残れば安全だとあなたに約束したはずですが。わたしを信じなかったのですか。あなたはエジプトに信頼を置いています。(エジプトは世の型です) あなたは実際、主のもとにいるよりも、この世にいる方が安全だと信じているのでしょうか。」まあ、そういう結末になります。15節。質問です。

—エレミヤ 46:15—

なぜ、お前の雄牛は押し流されるのか。それは踏みとどまり得ない。(エジプトの強力な戦士のことです)

答え：主が彼らを突き倒されたからだ。

つまり、あなたは強大で強く、無敵になれる、あるいはそうだと思うことは出来ますが、しかし、もし主がそれを定め、主がそれを宣言し、主がそれを言われるなら、それで決まりです。それが理由です。他に説明のしようがありません。「髪の毛の調子が悪くて…」と言っても、違います。「軍隊はまだ準備ができていなかったから。」一違います。「私たちは編成されていなかったんです。」一違います。「良い計画ではなかったんです。」一違います。「油断していました。」一違います。

さらに、私には長いリストがあります。皆さんにもありますよね。説明は一つしかありません。それは主だからです。主のゆえに。それが理由です。

—エレミヤ 46:16—

多くの者がつまずき、倒れる。彼らは互いに言う。『さあ、われわれの民のところ、生まれ故郷に帰ろう。あの虐げる者の剣を避けて。』

ああ、どうもありがとう。傭兵たちが、「我々はここから出て行く」と言っているようです。「我々は、エジプト、あなたと一緒に戦うために来ました。でも、あなたがたは、流されて、次々と倒れて、逃げている。我々は居残るのですか？」

—エレミヤ 46:17—

彼らはそこで叫んだ。(聞いてください) **エジプトの王ファラオは、時期を逸して騒ぐ者。**

騒がしく音を立てる。ファラオは口が達者です。口先だけで、行動しない。「時期を逸して騒ぐ者」大げさで、偉そうなことばかり言っています。すべて口先だけです。ただの騒音に過ぎません。

—エレミヤ 46:18—

わたしは生きている。—その名を万軍の主という王のことば— タボルが山々の間にあるように、カルメルが海のそばにあるように、彼は必ず来る。

—エレミヤ 46:19—

エジプトに住む娘よ、捕囚となる身支度をせよ。…

おお、なんだか聞き覚えがありますね。

…メンフィスは荒れ果て、焼かれて住む者もいなくなるからだ。

お許しいただきたいのですが、もし私がユダから逃げてきたユダヤ人で、十分にそこにいたら、こんな感じです。「はあ、はあ、はあ…」そして、これが降りかかると、この言葉を聞くと、「！？着いたばかりなのに！ 冗談でしょ！？ それが私がここに来た理由なのに！ それなのに、ユダで起きたのと同じことがここでも起きると言うのですか？」「私はあなたに伝えようとしたのに！」もし私がここで自分と議論しているとしたら、おそらくそうだからでしょう。そこが肝心なところなんです。こんな風にまとめればいいのかもかもしれません。あなたは神から逃げられません。これについては、ヨナですね。彼にとっては良い結末ではありませんでした。ヨナは神から逃げようとしてました。それでも結局は、ノフ/ニネベに連れて行かれました。神から逃げることは出来ませんが、やってみることは出来ますが、神から逃げることは出来ません。20節は非常に興味深いです。

—エレミヤ 46:20—

エジプトは、かわいらしい雌の子牛。…

男性方、奥さんにそんなこと言っははいけませんよ。私は一言、忠告します。うまくはいかないでしょう。

「ハニー、君はとてかわいらしい雌牛だ」？ ええ、はい。軽い表現をお許しください、しかし、これが言っていることは、「あなたがたは雌牛です、子牛は収穫のために熟し、犠牲のために準備されている。」

—エレミヤ 46:20—

...しかし北からアブが襲って来る。

—エレミヤ 46:21—

その中にいた傭兵も、肥えた子牛のようだ。…

その呼び方もやめましょう。つまり、屠殺のために肥やされたのです。見事に熟した、生け贄の準備です。

...彼らもまた、背を向けてともに逃げ、立ち止ろうともしない。彼らの滅びの日、刑罰の時が、彼らの上に来るからだ。

手短にお聞きしますが、まだ彼らをかawaiiそうに思っていないですか？

—エレミヤ 46:22—

彼女の声は逃げ去る蛇の音のようだ。敵が軍勢を率い、木こりのように、斧を持って入って来るからだ。

—エレミヤ 46:23—

彼らはその森を切り倒す。一主のことは— それがいかに奥深くても。実に、彼らはいなごより多くて数え切れない。

—エレミヤ 46:24—

娘エジプトは辱められ、北の民の手に渡される。」

これは、あり得ないことでした。エジプトは超強国だったからです。もしあなたが彼らに告げたなら、基本的に神は預言者エレミヤを通して告げられますが、もしあなたがエジプトに「やあ、バビロン人がやって来て、打ち負かしに来る。」と言ったら、彼らは「かかって来い」と言うでしょう。「誰も我々を倒せない。我々が何者か分かっているか？」自分たちの強さとプライドを誇っています。彼らは無敵でした。彼らは自分達の中では無敵で、「あり得ない」と思っていました。神は「あり得ます」と言われます。

—エレミヤ 46:25—

イスラエルの神、万軍の主は言われる。「見よ。わたしは、…彼により頼む者たちを”罰する”。…

破壊ではなく、“罰する”です。私がそれを強調する理由は、イザヤ 19 章です。あ～、イザヤ 19 章を神に感謝します。エジプトに関する預言です。神はエジプト人を愛しておられます。嬉しいです。私はエジプト人とのハーフです。私の父はエジプト人でした。ですから、イザヤ 19 章を神に感謝します。イザヤ書 19 章は、エジプトに関する預言です。最後には、「わたしの民エジプト」とあり、神は彼らをそう呼ばれます。神は、永遠の未来、千年王国において、エジプト人に対する計画を持っておられます。神はエジプトを「わたしの民」と呼ばれます。イスラエルがあなたの民だと思いました。いいえ、イスラエルは「ゆずりの民」エジプトは「わたしの民」です。お～、彼らは「わたしの民」なんです。「わたしの民を滅ぼさず、わたしの民を行かせます。わたしは彼らを罰しますが、彼らを見捨てません。」神は憐み深いからです。それを章の終わりで見ることになります。

—エレミヤ 46:25—

...「見よ。わたしは、テーベのアモン、ファラオとエジプト、その”神々と王たち”、(これが本当のところ) ファラオと彼により頼む者たちを罰する。」

なぜなら、究極的には、イスラエルに特有の他の預言と同様に、すべては一つの目的のためです。「そうすれば、すべての国々が、“わたしが”彼らの神、主であることを知るようになる。」分かりましたか？

もう一度やりましょうか？「もうしないでください」と言っておられる方がいますね。分かりました、まあいいでしょう。私は皆さんに憐み深いので。なぜ、「わたしを”あなたの神、主である”の「わたし」を強調したのか？ なぜなら、彼らには他に信頼している神々がたくさんいたからです。ですから、神は「分かりました」と。そのことを今から見ていきます。エジプトの十の災い、出エジプト記でイスラエルの民がエジプトの奴隷状態から解放されたとき、その十の災いの一つ一つが、エジプトの多くの神々のうちのいずれかに向けられたものでした。こういう事です。これについては、少しだけ敏感なのですが、カエル（フロッグ）の災いを覚えていますか？ ファラグではありません。フロッグ/カエルです。なぜだか知っていますか？ 彼らがカエルを神々として崇拝していたからです。神がこう言っておられるようです。「ああ、あなたはカエルが好きなんですね？ わたしはカエルの神です。ファラグの神でもあります。あなたがたにカエルをあげましょう。そうすれば、あなたがたは誰が主なる神であるかを知ることができます。」ナイル川、彼らはナイル川を崇拝していました。「あなたがたはナイルを崇拝するのですね。見ていなさい。それを血に変えます。そうすれば、わたしがあなたがたの”神”、主であることを、あなたがたは知るでしょう。」単数形の大きい文字の「神」です。そういうことです。

—エレミヤ 46:26—

わたしは彼らを、そのいのちを狙う者たちの手に、バビロンの王ネブカドネツアルの手とその家来たちの手に渡す。その後（お聞きください）エジプトには、昔のように人が住むようになる—主のことば。

お～、本当ですか？ 約束して下さるのですか？「そうです。」ああ、感謝します。これは憐みです。憐みです。今度は、神はエジプトからユダに目を向けられます。

—エレミヤ 46:27—

わたしのしもべヤコブよ、恐れるな。イスラエルよ、おののくな。見よ。わたしがあなたを遠くから、あなたの子孫を捕囚の地から救うからだ。ヤコブは帰って来て、だれにも脅かされずに平穩に安らかに生きる。

—エレミヤ 46:28—

わたしのしもべヤコブよ、恐れるな。—主のことば— わたしが、あなたとともにいるからだ。…

「そうは見えませんが、そんな感じがしないことは分かっています。しかし、わたしはともにいます。あなたから離れず、あなたを見捨てません。あなたを愛しています。」

—エレミヤ 46:28—

…わたしは、あなたを追いやった先のすべての国々を滅ぼし尽くす。しかし、あなたを滅ぼし尽くすことはない。ただし、さばきによってあなたを懲らしめる。決してあなたを罰せずにおくことはない。」この章は、現代に適用でき、7年の患難の最中に究極的な成就を見る預言で終わっています。ユダヤ国家の救いです。神は憐み深いお方です。神はユダヤ人を見捨てておられません。47章です。7節だけです。嬉しくないですか？ 1節。今度は、エジプト人からペリシテ人へ向かいます。準備はいいですか？

—エレミヤ 47:1—

ファラオがガザを討つ前に、ペリシテ人について預言者エレミヤにあった主のことば。"

—エレミヤ 47:2—

主はこう言われる。「見よ。北から水が上って来てあふれる流れとなり、地とそこに満ちているもの、町とその住民を押し流す。人々はわめき、地の住民はみな泣き叫ぶ。

—エレミヤ 47:3—

荒馬のひづめの音のため、戦車の響き、車輪のとどろきに、父親たちは気力を失い、子どもたちを顧みない。

わお...！ これは、神の御言葉の中で、単に神の御言葉のページの言葉として読まない方が良い箇所です。その様子を頭に思い浮かべながら、力強い馬のひづめが踏み鳴らされる音を聞いてみてください。騒がしい音、戦車が突進する大きな音を。完全な混沌。完全にパニック状態。車輪のとどろき。父親が子どもを見捨てるなんて、とても恐ろしいことです。彼らはただそこから逃げ出したいのです。彼らの勇気は完全に失われてしまいます。今までの勇気は消えてしまいました。4節に理由が書かれています。

—エレミヤ 47:4—

すべてのペリシテ人を破滅させる日、ツロとシドンを助ける生き残りの者すべてを断ち切る日が来たからだ。…

ところで、これは私の出生地、現代のレバノンです。つまり、レバノンは助けに来てくれません。

…まことに主は、ペリシテ人を、カフトルの島の残りの者を破滅させる。

さて、これは興味深いもので、興味のある方は、ご自分の神の御言葉に触れる時間で学んでみてください。これが、古代ペリシテ人の実際の起源です。これが、彼らの出身地です。まあ、ネタバレすると、クレタ島です。さて...ええ、いいでしょう。少し時間をかけましょう。これはとても重要なことなので、ちょっと触れておきます。特に、こんにち起きていることに当てはまります。ペリシテ人なんて存在しません。ペリシテ人は絶滅しました。ダビデはペリシテ人の最後の一人を滅ぼした人です。現代の、いわばパレスチナの人たちです。これは、ペリシテ人からパレスチナ人への音訳で、彼らに与えられた名前です。彼らはペリシテ人ではありません。では、なぜパレスチナ人という名が付けられたのでしょうか。イスラエルにパレスチナという名が与えられたからだ。イスラエルが滅亡したとき、なぜパレスチナという名前がつけられたのでしょうか？ イスラエルが滅ぼされたとき、その人々の宿敵の名前を都市につけたのです。イスラエルの宿敵とは誰か？ ペリシテ人です。ローマ帝国がイスラエルを占領したとき、最初はアエリア・カピトリナと名付けました。名刺には収まりませんね。そこで、もっと短い名前を考えることになったんです。— (笑) — すみません。そこで彼らは、アエリア・カピトリナというその名前を諦めました。そしてその代わりにペリシテと呼ばれるようになりました。パレスチナのことです。パレスチナ人の土地だからというわけではなく、イスラエル人の敵だからです。だから、2000年近くもパレスチナと呼ばれていました。ああ...これについて、私は聖なるものとしします。牧師がこの地をパレスチナと呼ぶのを聞くと、私は処理できず、耐えられません。う”～～！！ これは個人的なことです。私のために祈ってください。聖書には、聖書の地図がありますよね。自分の聖書から、それらを引き裂きました。「古代パレスチナの地」失礼ですが、イエスがここにおられた時、パレスチナではありませんでした。イスラエルでした。パレスチナ”という名前ではありませんでした。紀元2世紀までは。ですから、「イエスの時代のパレスチナ」とあれば、その巻物や地図は暖炉で燃やします。とにかく、私が聖さを失う前に、先に進んだ方が良いでしょう。5節です。これは好きではありません。

—エレミヤ 47:5—

ガザは頭を剃られ、…

どうしたんでしょう？ — (笑) — どうりで。私はずっとパレスチナ人だと言われていましたが、19歳の時に救われ、御言葉を読むようになりました。私はそのことを学び、「ちょっと待てよ、もし私がパレスチナ人なら、私は絶滅したんだ。存在するはずがない。」 — (笑) — 「では、あなたは何者なのです

か？」分かりません、私は何者？ 私はアラブ人です。それが私です。エジプトは純粋な...まあ、これは私が使っている例なんですけど、もっと良いのがあれば教えてください。混血種と純血種がありますよね。ジャーマンシェパードやオーストラリアンシェパードは純血種です。それがエジプト人です。そして、混血の雑種があります。ちなみに、我が家にその一匹がいます。混血種です。それがアラブ人です。さまざまな人種が混在しています。その人々をアラブ人と呼んでいるだけです。モアブ人、エドム人、エブス人、懐中電灯、シロアリ、(ite で韻を踏む)全部そうです。ー (笑) ー 混在しています。でも、エジプト人をアラブ人とは呼びません。それは侮辱にあたります。純血種があり、エジプト人です。私はエジプトでその失敗をしました。あれは危なかったです。神は窮地から救ってくださいました。とにかく、進行中の聖書の学びに戻りましょう。ほぼ完了です。この頭を剃るという考えは、神の気を引くために髪を切った、自分を切ったという考えを含みます。エリヤを覚えていますか？ カルメル山での、バアルの神と真の生ける神との戦いを？ バアルは火の神として知られていたもので、バアルに火をもたせられてもらうことが出来なかったのは、本当に酷いことです。エリヤが「よし、コンテストをやろう」と言った時を想像してください。「生贄を用意し、水をかけ、誰の神が火を下すことができるかを見ようじゃないか。バアル崇拝者たちは、「冗談でしょ？完璧だ。」「よし、良いだろう。その取引をしよう。どこにサインしようか？ 我々の神は火の神だからだ。」ここで彼らは、呼び求め、叫んでいます。エリヤは…私はこれが大好きです。これは第一列王記 18 章です。皆さん、ここを何度も繰り返し読むべきです。ただ、この理由のために。エリヤはこれを非常に楽しんでいるのです。エリヤはこんな感じです。「もしかしたら、バアルは聞こえないのかもしれない。」彼らはさらに大声で叫びます。「もしかしたら、忙しいのかも。そう思ったことない？ ああ、もしかしたら、バアルはトイレにいるのかも。」ええ、本当ですよ。それが原語での意味です。「バアルは用を足してるんだ。だから反応がないんだ。」これが続き、彼らは…彼らはただ気が狂いそうです。そして、神の注目を得るために、自分自身を切り裂き始めます。それは上手くいきません。最後にエリヤが言います。「よし、もういい。私の道をあけろ。」そこにさらに水を注ぎます。一回だけで、バーン！ 火が下ります。「焼き尽くす」この表現が好きです。「舐め尽くす」"炎がすべてを舐め尽くすような、とても分かりやすい描写です。他に何か質問はありますか？ ー (笑) ー 私だったら、エリヤよりももっと楽しんだかもしれませんが、でも、だからこそ神は私にそんなことをさせないのでしょ。では、もうすぐで終わりです。6 節、いや、違いますね。

ーエレミヤ 47:5ー

...アシュケロンは黙らされる。平地の残りの者よ、いつまで、おまえは身を傷つけるのか。」

ーエレミヤ 47:6ー

「ああ、主の剣よ。いつまで休まないのか。…

今度は剣に話しかけています。

...さやに収まり、静かに休め。」

これは剣を擬人化したものです。剣と対話をしています。「おお、主の剣よ、いつになったら満足するのですか？」答えは 7 節、最後の節です。

ーエレミヤ 47:7ー

どうして、休めるだろうか。主が剣に命じられたのだ。アシュケロンとその海岸、そこに剣を向けられたのだ。これでこの章は終わり、聖書の学びも終わりです。主の剣を知っていますか？ こんにちも静かではありません。終わるまでは、黙っていません。なぜなら、それは鋭い剣、両刃の剣であり、非常に鋭い

ので、たましいと霊、骨と骨髄の間を切り裂くことができます。(ヘブル 4:12)

さて、始めに簡単にお伝えしましたが、人々のためにどれほど心を痛めるかは、人々に下る裁きについての知識に比例します。私たちが今読み、これらの章で学んだことすべては、起こります。こんにちの人々に降りかかります。それは、私たちの彼らに対する見方、彼らに対する反応、彼らのための祈りなど、すべてを変えてしまうはずで。私たちは人々のために心を痛めていますか？ 人々のために祈っていますか？ 人々に何が起ころうとしているか理解していますか？ もしあなたが、人々に降りかかることを本当に理解するなら、彼らのために本当に心を痛めるでしょう。これが今夜私たちのための教訓だと思います。

お立ちください。カポノ、上がって来て下さい。締めくくります悪くはないですね？

天のお父さま、もう一度、本当にありがとうございます。これは、言葉は悪いですが、超厄介なものでした。しかし、ああ、主よ、目も覚める思いです。しかし、ああ、主よ、目も覚める思いです。それは必要なことです。ここに書かれていることは、すべてあなたの言ったとおりのことが起こりました。そして、その日、終わりの時に起こることとして、あなたの御言葉で私たちに語られたことは、すべてあなたが言われたとおりに起こります。主よ、この失われ、死にゆく世界、裁きの機が熟した世界に対して、主よ、彼らに対する私たちの心が変わり、彼らに対する私たちの態度が変わることを祈ります。主よ、あなたのように彼らを見る目を与えてください。彼らに降りかかることのレンズを通して、彼らを見ることができるようにしてください。主よ、このように生々しいものをありがとうございます。この記録があなたの御言葉の中にあることに感謝します。その恐ろしい只中にも、あなたの恵みと憐みがあることに感謝します。主よ、あなたが憐み深い神であられることに感謝します。あなたを本当に愛しています。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7